

親野智可等さん

(教育評論家)

教育・子育てには誤解がいっぱい！(上)

外で元気に遊ぶ子供たちを見ると、いつの時代でも子供は変わらないなあと思ってしまう。だが、家庭の中で、子供たちが叱られ続けているとしたら……。親の口からつい出てしまう言葉が招く深刻な事態を指摘する親野さんに聞いた。

「叱らない親が多い」はウソ

親野先生は二十三年間小学校の教師をされ、現在は教育相談や子育て相談などを通してたくさんの親子の現実を見ています。まずはそうした経験から実感されていることから聞かせてください。

一番感じるのは、子育てや教育に関して世の中には勘違いが多すぎるということですね。その最たるものは、「叱らない親が多くて困る」「教師も親も叱らないからダメな若者が増えている」といった言説です。テ

レビを観ていても、悪さをする若者や親子関係を基にした事件などが起こると、番組のコメンテーターのうちの多くが、「親も教師もきちんと叱ってこなかったからだ」と発言します。コメンテーターがテレビでそのように言うから、観ている人たちも「そうなんだ」と思い、間違った情報の再生産がされていく。これは大変に困ったことだなと感じます。

こうした発言や言説を紋切り型で言える人たちは、リアルな子供たちの生活を知らないから言えるのでしょうね。なぜかという現実はまだ大きく違うからです。子供たちは叱られていないどころか、日々非常によ

く叱られています。親たちも日々非常によく子供を叱っています。

教師をしていたときに子供たちに朝のスピーチをやらせていたのですが、ある男の子が起きてから家を出るまでの様子を話してくれたことがあります。

一日のスタートは、「何時まで寝てるの！ 自分で起きられないの！」から始まります。「早くご飯食べなさい！」と言われてご飯を食べていると「顔

は洗ったの!? 顔が先でしょ！」と言われ、顔を洗っていると「いつまで洗ってるの！ 早くご飯を食べなさい！」と言われる。席に戻って急いでご飯を食べていると「よく噛まなくちゃダメでしょ!」「お友達待たせちゃダメでしょ! 早く食べちゃいなさい!」と

叱られ、「さっさと学校に行きなさい!」と追い出されて「行ってきま〜す」と家を出ると、「戻ってこい」と呼び戻される。何だろうと思って戻ると「行ってきますの声が小さい!」と叱られる(笑)。

そんな調子で朝起きるところからずっと叱られっぱなしなんです。

この子のスピーチは子供たちにも大うけでした。「ボクも」「私も」という共感の声がたくさんあがって、特別枠でシリーズ化されたんです。次の日は学校から帰ってきてからの様子、次の日は夕食時、その次はお風呂時、次は寝る前、それから日曜日とバーションを変えて結局一週間続きました。それだけ叱られネタがごろごろ転がっているということです(笑)。

新幹線や電車の中、病院などでも子供たちはよく叱られています。子供が飽きてモゾモゾしたすと、お母さんたちは「ちゃんと座ってなきゃダメでしょ」「お



●おやの・ちから 一九五八年生まれ。二十三年間の教師経験をもとに教育評論家として活躍。「ダウンタウン」の指南役としても知られる。著書多数。ムラマカ「親力で決まる子供の将来」は、親や教師たちの圧倒的支持を得て、約四万五千人の読者を獲得している。全国各地の小学校や幼稚園・保育園のPTA、市町村の教育講演会でも大人気。